

やまと 民俗への招待

鹿谷勲

「大和の大和の源九郎はん遊びまほうか」という詞で始まる鬼遊びのわらべ歌がある。源九郎とは白狐で、佐藤忠信に化けて、源頼朝の追手を逃れて吉野山に隠れる義経の元へ静御前を送り届けたといい、「義経王本桜」として文楽や歌舞伎で知られる。

8(昭和13)年には神社改築を記念して、「源九郎^源」が作られる。作詞酒井雨紅、作曲中山晋平、振り付け島田裕だつた。これ以降、白狐の面を子供たちが被つて行進するようになった。

3月27日を春季大祭とし、戦時中は中断したものの、戦後も続けられたが、その後20年ほど行われていなかつた。78(昭和53)年に、大和郡山青年会議所や源九郎稻荷奉賛会などが渡御を復活させた。83(昭和58)年からはお城まつりの一環として

白狐の面を子供たちが被って行進するお城まつり
—筆者提供

春の祭り 白狐渡御

西昭氏とヤス子夫人で、周囲の人々の協力を得ながら、神社と祭りの維持に努めてきた。今年は4月1日、午前に祭典が行われ、午後2時から、好天のもと筒井順慶、豊臣秀長、柳沢吉里などの騎馬行列などが広々としたたたずまいの蘭町線（県道108号線）を北上し、その後、獅子・猿田彦を先頭に、義経・静御前、小型のダンジリ、白狐踊りの行列が続く。前半の静々した武者行列のあとは、白狐囃子と歌声に乗って、白

の法被に狐の面を被り、白いミテグラを振りながら子供たちがにぎやかに行列するのが好対照だ。火の見櫓のある文差町から民家が続く本町筋を西に進み、近鉄橿原線に沿って満開の桜並木を背景に南下する。沿道には、地元の人々だけでなく、桜見物の観光客も含めて大勢の人々が渡御行列を楽しげに眺めている。

しい春の祭りで、市民の
祭りとして定着していく。
その背景には、源九
郎稻荷神社への根強い信
仰があるが、これは別の
機会に譲りたい。(奈良
民俗文化研究所代表)